

# 熊本地震を振り返って

熊本市立必由館高等学校  
主任主事 村田 一広

最初に、このたび発生した熊本地震により亡くなられた方々に対し、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

このたびの2度にわたる震度7規模の地震と、1,900回を超える余震による被害は甚大なものであり、皆さんの学校においても、校舎や体育館にその爪痕が、未だに深く残っている状態と思います。

本校においても、校舎内のひび割れや外壁の崩落のみならず、歴史的な建造物が倒壊するなど、甚大な被害となりました。

また、体育館においては、現在も使用できず、学校行事や授業等に支障をきたしている状態です。

このたびの震災で、熊本市内には多くの避難所が開設され、私は市職員という立場上、本校の避難所対応だけではなく、他校や他施設の避難所対応も経験しました。その中で私自身が強く必要性を感じたことは、共通の避難所対応マニュアルだけではなく、各学校での個別マニュアルも必要だということです。

そこで、個別マニュアルを作成するうえで、決めておきたい項目を、私なりに考えてみましたので、御紹介したいと思います。

## 1 参集条件の決定

このたびの熊本地震で、地震発生直後に、学校に参集すべきか悩まれた方も多くいらっしゃったと思います。あらかじめ学校に参集すべき条件を決め、学校内で周知しておけば、そのような心配はなくなると思います。

(参集条件例)

地震・・・震度5以上

水害・・・大雨・洪水により避難所開設要請があった場合 など

## 2 避難所対応の人員体制の確保

(1) 事務職員だけではなく、教員も含めた形でグループ分けしておく。

本校の場合、地震発生後しばらくは、事務職員だけで避難所対応をしていましたが、長期間の対応が必要となったため、途中から教員も含めた体制に変更しました。

また、学校職員以外（区役所職員等）の方が避難所対応に来校された場合も、学校側のサポートは必須だと思いました。

(2) 避難者の中で配給や掃除の際などに協力してくれる方（ボランティア）を確保する。  
避難者数が多く、避難所の開設期間が長期になると見込まれる場合は、避難者にも配給の手伝いや避難所の掃除などを協力してもらい、避難所を運営できる体制を整える必要があります。

(3) 避難者名簿の作成と ID カードの交付

避難者名簿の作成と ID カードを交付することで、避難者数の把握や配給の際の避難者の確認ができます。避難所によっては、避難者以外が配給を受けたり、物資を持ち帰ったりするケースもあったようです。

(4) 避難所内ルールの決定

避難所を開設し、定期的な配給が実施されるようになったら、配給や掃除の時間、ごみ出しについてなど、避難所内のルールを決定したほうが、円滑な避難所運営ができると思われます。

(5) 防災倉庫内の物品確認及びリスト作成

防災倉庫内に備蓄してある物品リストを作成しておくことで、有事の際に、迅速に対応することができます。また、防災倉庫の鍵の管理が最も重要です。（どこに鍵が保管されているか、学校内で周知しておくことが大切です。）

現在、少しずつではありますが、復旧・復興に向け工事等が進められています。

各学校で被災状況は異なりますが、「チーム学校」として一丸となってがんばりましょう。

## 頑張ろう熊本！負けんばい熊本！支え合おう九州！

(第 64 回全国公立高等学校事務職員協会九州協議会研究大会並びに総会冊子)

<本校の被害状況写真>



米田家旧邸



2 階外壁



1 階外壁



トイレ洗面台鏡

### <熊本市立必由館高等学校の御紹介>



旧熊本藩家老・米田家下屋敷一帯を校地とする本校は、美しい庭園「採釣園」や米田家旧邸など、歴史的建造物に囲まれた由緒ある地にあります。また、明治憲法の起草者である井上毅の地としても知られています。

歴史的に彩られたこの地に、本校が創立されたのは1911年（明治44年）。

「熊本市立実科高等女学校」として開校し、戦後1948年（昭和23年）には「熊本市立女子高等学校」へと改編し、普通科と被服科が併置となりました。翌年には男女共学制となり「熊本市立高等学校」と改称し、さらには2001年（平成13年）には「熊本市立必由館高等学校」と校名変更し、現在に至っています。

### 学科構成

普通科普通コース（6クラス）

国際コース（1クラス）

芸術コース（1クラス）音楽系・美術系・書道系

服飾デザインコース（1クラス）